

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱 1階		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番5号、6号		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱は昨年10月より2ユニット18名となり、また増改築により今迄より広いスペースを有する事によりその空間を利用して運動やレクリエーションにと活用しています。利用者様はお元気で活発な方が多く、毎日にぎやかな声であふれていて「利用者様同士の交流が盛んに行われ、一人が他を思いやり、また他が一人を思いやる」そのような空気の流れているホームです。近隣には釧路市を代表とする春採湖公園、鶴ヶ岱公園があり、温かな季節には散歩やドライブを兼ね遊びに出かけ皆で楽しんでます。又同一敷地内には当ホームの2階ユニットが小規模多機能介護「かつこうの宿」の2階で運営しております。少しの距離感がある事が双方の利用者様のちょっとしたお出かけ先となっており、楽しみの場となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは平成28年10月より各ユニットの増改築を行い、1ユニット9名と同一敷地内の別棟の小規模多機能ホームの2階に1ユニット9名で定員18名で運営しており、広い共用スペースで体操や歌、ゲーム等のレクリエーションで職員や利用者同士の交流を図り、お互いを尊重しながら共同生活を過ごしています。また、外出機会も作り、日常的に隣のユニット間との交流や天気の良い日には春採湖周辺や外気浴、ショッピングセンターへの買い物同行等で戸外に出かけられるよう支援しており、年間行事を立て、花見や紅葉散策、近郊の観光地へのドライブや外食等、ご家族の協力を得ながら普段行けない場所へ出かけられるよう支援しています。今後も地域との関わりを大切にしながら、事業所理念である「家族や地域と共に支え合う充実した生活環境づくり」を実践できるよう取り組んでいるホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域と共に支え合う充実した生活環境づくり」をホームの理念に入れ、利用者それぞれが自分らしい生活が送れるよう家族や地域の方々と共に支えて行けるように管理者、職員は理念を共有して、実践している。	「家族や地域と共に支え合う充実した生活環境づくり」を事業所理念として日常業務や職員会議等を通じて理念を共有して実践に向けて取り組んでいる。また、見易い場所への掲示や生活記録に貼付されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員としてその活動を理解し、協力して利用者と共に参加したり事業所の活動、行事に参加協力をして頂くなど日常的な交流を行っている。	町内会の一員として地域との関わりを大切にしながら地域の活動や行事にも積極的に参加し、事業所の避難訓練や野外昼食会等の事業所行事にも参加協力を載いて日常的に交流している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の交流の場の提供を行ったり、事業所の研修や会議を通して地域の方々に認知症の人の理解や支援方法を発信し、相談を受けたりしている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では構成員に利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見や相談、質問から課題を表面化しサービス向上に活かしている。	年6回を目安に開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、ご家族が参加して事業所の活動報告や防災訓練等、地域との協力体制について意見交換し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは相談に乗って頂いたり不明なところの説明を受けるなど、事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築いている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務や運営推進会議を通じて情報交換を行い、事業所の実情やサービス向上に向け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しているが玄関の施錠は夜間は防犯上の観点から行っている。またご家族の承認をいただき自傷行為のある利用者様のミトン装着、つなぎ服の着用を期間を決めて行っていたが、常に身体拘束をしないケアについて話し合いを進め、ケアに取り組もうとしている。	身体拘束廃止について管理者及び職員は、外部研修や内部研修を通じて身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、自傷行為がある利用者のミトン装着やつなぎ服の着用については、職員全員と家族や医師を交えた「身体拘束廃止委員会」を開催して緊急やむを得ない場合として3つの要件すべてを満たし、家族の同意や記録等、必要な手続きを踏んで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修や職員会議等で高齢者虐待防止法について学び虐待防止や虐待が見逃されない様常に意識を強めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度の理解が足りないが、研修や職員間の話し合いから学ぼうとしている。個々の必要性をご家族や関係者と話し合い、学び活用して支援して行けるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行うと同時に文書にて双方の理解、納得をはかっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や質問、苦情に関し相談係の配置を行ったり意見箱の設置を行っている。ご家族の来訪の際には積極的に意見交換を行い管理者や職員で情報の共有をして運営に反映している。	家族や来訪者が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるよう意見箱を設置している。また、来訪時や電話等で積極的に意見を伺い、速やかに職員間で話し合い反映できるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個別面談や毎月の職員会議等で意見や提案、気持ち等を聞き運営に反映している。	管理者は毎月の職員会議や日常業務を通じて意見や要望、提案を聞くよう取り組んでいる。また、必要に応じて個人面談を行い、意見や要望、希望等を聞き、職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員が法人内外の研修会の参加の機会の確保や、積極的に意識の向上を図って行けるように進め、資格の習得が出来るような環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者は各グループホーム協会に加入をし、管理者や職員が研修会や交流会を通、し同業者との交流したりネットワークづくりができサービスの質の向上につながる様取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始する段階で本人、家族よりモニタリングを行い本人が困ったり、不安に感じたりすることの無いように管理者、スタッフ一同、情報共有して安心した生活が送れるよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始する段階で家族の困りごと、不安な事、要望に耳を傾け、安心して入所家族を見守って頂き、今後の良い関係づくりが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始の段階では本人や家族からの情報から必要とされている支援の見極めを行い、他のサービスの利用も含め柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片付け等家事全般を共に行い、また楽しみ事の散歩や買い物などを通し共に楽しい暮らしが築いていける様、より良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は電話や来訪時に家族と話をする機会を持ち要望や困り事、その時々気持ちを聞き、本人と家族の絆を大切にしながら支援につなげ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人々の訪問、手紙、電話等の支援や馴染みの場所への訪れを行ったり、家族との思い出話や昔話に耳を傾け、人や場の馴染みの関係継続の支援に努めている。	利用前からの生活歴や家族からの情報等、センター方式のアセスメントシートを活用して、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はそれぞれ心身の状態の差があり、時には意見の相違やトラブルの発生があるが、一人ひとりが孤立したり関係の悪化が起らないよう共に支え合える関係ができるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも本人、ご家族からの連絡や相談がある時はこれまでの良い関係性を大切に必要な相談、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討し支援している。	センター方式のアセスメントシートを活用し、日常生活の表情や会話から情報を収集し、家族からも聞き取りを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め。本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時より生活歴、病歴、暮らし方、生活環境やこれまでのサービス利用の経歴の把握に努め支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らし方や心身状態、有する力等は生活記録や職員ノートや利用者ノートにて職員間で現状の把握をし、情報の共有を行い支援に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方に関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に本人がより良く暮らすため本人や家族と話し合い、意見や希望を取り入れた介護計画を作成している。また、毎月のカンファレンスで、職員からの意見や提案を反映させた現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活における様子やケアの実践、結果、気づきを生活記録に残し職員間で情報共有しながら日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスの他にその時々にも発生するニーズに対し柔軟に支援をし個々の必要なサービスに取り組めるよう多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人や自然等の地域資源を把握し、利用者一人ひとりが心身の力の発揮をしながら、安全で豊かな暮らしを楽しみ送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医とほうも事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。事業所の看護師を中心として利用者の健康状態を把握し、医師の往診や病院への受診の際は職員が同行して本人の状態を説明し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、入院中には見舞いにはできるだけ早期に退院できるように病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできる事を十分に説明しながら方針を共有し、家族や医療関係者との連携を図りチーム支援に取り組んでいるが介護従業者の支援体制等で課題もある。	重度化や終末期の在り方について本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることを十分に説明して同意を得ている。また、ケアの方針は医師、職員が連携を図りながら職員全体で共有している。	ターミナルケアについての家族や医師との連携は図れているが、職員間で考え方に差異が生じないよう終末期マニュアルの周知徹底や看取り介護の最終段階時のスタッフのシフト体制の取り方を検討しているので、その実践に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員は火災災害時に利用者が昼夜を問わず避難出来るよう訓練を重ね避難方法を身に付けているし地域の協力体制も築けているが、地震や水害時の避難誘導の体制がが出来ているとは言えない為早急に解決すべき課題である。	年に2回、消防署の協力の下、地域の方々と一緒に通報から避難誘導まで行う総合訓練を実施し、自動通報装置には地域の方々も登録され協力関係も築かれている。また、地域で行われた土砂崩れを想定した避難訓練にも参加している。	自然災害への防災対策について地域の総合訓練に参加しているが、地域との連携を含めた避難の手順や誘導、避難経路確保等について、まだ不十分と感じているため、今後も話し合い、連携体制の構築に取り組んでいるので、その実践に期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を保てるようプライバシーに配慮した言葉がけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けており、プライバシーへの配慮にも十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけ、一人ひとりの対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者一人ひとりのペースは違うが利用者の気持ちを大切にそのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや量、彩や配膳方法を見ながら提供し、また個々の力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の食べたい物や好みを踏まえ、品数や色合い、季節の旬な食材等取り入れながら食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。また、利用者の力を活かしながら一緒に準備や食事、後片付けが行えるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	これまでの習慣を考慮し、食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように支援し、記録に残して一人ひとりの状態や力を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況は利用者一人ひとりでパターン、習慣が違っているので状況を記録に残し、トイレでの排泄、自立に向け声かけや誘導等の支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ、医療機関との連携等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しめるように利用者の要望やタイミングに合わせた支援を心掛けているが、体調やその日の都合で日程や時間の変更があり要望に応えられない事がある。	週2回を目安に出来る限り一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、入浴拒否の強い利用者にも工夫しながら柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬の目的や副作用、用法や用量について必ず説明書を確認し服薬時は個々に合わせて、服薬状況や症状の変化の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日には散歩やドライブを日常的に支援している。楽しみ事のの一つが外出で大変喜ばれている。普段いけないような場所は行事企画し、利用者、ご家族一緒に出掛け楽しんで頂ける様支援している。	天気の良い日には春採湖周辺や敷地内での散歩や外気浴、ショッピングセンターへの買い物同行等で戸外に出かけられるよう支援している。また、年間行事を立て花見や紅葉散策、近郊の観光地へのドライブや外食等、ご家族の協力を得ながら普段行けない場所へ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、管理が生きがいのある生活、心豊かな生活になる事を全職員は理解しており個々の希望や力に応じ、お金の所持やその使用の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に生け花や絵画、イラスト、誕生会等のお知らせ（ポスター等）を飾りその周りで皆様で会話が弾み楽しんで頂いている。また生活感や季節感をとり入れ居心地良く過ごして頂くように工夫をしている。	共用空間は季節毎の飾り付けや行事の写真、利用者の作品を掲示し、適切な温度や湿度が保たれており、利用者に不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、ご家族が相談し馴染みの物や使い慣れた物、好みの物を置く事で安心し、居心地の良い場になっている	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真などが飾られて、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの心身の状態に合わせ居住空間や共有スペースの手すりや導線の見直しを行うなど、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4－2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴ヶ岱 1階

作成日: 平成 29 年 3 月 6 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	33	職員間で重度化や終末期にむけた情報や支援内容の共有が出来ておらず、看取り介護時の詳しい支援内容やその際のシフト体制の見直しが必要である。	職員全員が終末期支援を理解する	①看取り介護の最終段階時のスタッフのシフト体制の取り方を検討、取り決めておく。 ②対象利用者様やご家族の支援内容の希望、要望を聞き取り文章化し、職員全員で共有できる ③終末期マニュアルの周知徹底	3ヶ月
2	8	権利擁護制度を理解できていない。	職員全員が日常自立支援事業や成年後見制度について理解する。	①定期的に勉強会を実施する。 ②研修会に参加し理解を深める。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱 2階		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3-7-5		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱は昨年10月より2ユニット18名となり、また増改築により今迄より広いスペースを有する事によりその空間を利用して運動やレクリエーションにと活用しています。利用者様はお元気で活発な方が多く、毎日にぎやかな声であふれていて「利用者様同士の交流が盛んに行われ、一人が他を思いやり、また他が一人を思いやる」そのような空気の流れているホームです。近隣には釧路市を代表とする春採湖公園、鶴ヶ岱公園があり、温かな季節には散歩やドライブを兼ね遊びに出かけ皆で楽しんでいます。又同一敷地内には当ホームの2階ユニットが小規模多機能介護「かつこうの宿」の2階で運営しております。少しの距離感がある事が双方の利用者様のちょっとしたお出かけ先となっており、楽しみの場となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実施を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念に基づき、新職員入社時には、オリエンテーション等で理念について説明をし、管理者、職員全員で意識し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事(カラオケ、湖水祭り、新年会等に利用者様と参加し、施設の行事(屋外食事会、クリスマス会等)にも地域の方々に参加して頂き交流を深めている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が施設に見学に来られたり、利用者様を訪ねて来訪、また色々な行事等で、利用者様の行動(認知症等)について誤解や偏見がないように説明し、共に支援をお願いしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、防災訓練、行事等にも参加して頂き、運営推進委員、利用者様、家族の方々からの率直な意見をもとに、利用者様へのサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から、困難事例や不明点などに関して相談している。また、事業所としての実情を伝えながら対応策等についても連携を密に協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の職員会議を利用し、身体拘束廃止委員会を開催、又身体拘束に関わるような案件が起きた時はその都度話し合いを設け、身体拘束をしないケアを再確認し日々の実戦でも従業員間で声かけを行い取り組んでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の廃止、虐待の防止に関して、職員会議でも話し合いの場を設け、また事業所内研修においても防止に努めるための研修の実施を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全てのスタッフが制度の理解、活用までは熟知していない為、今後、事業所内研修にて学べる機会を設け、理解を深め、対象者には支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設に伴い、2階はほぼ新利用者の為、契約時には丁寧に時間を設けて説明している。事業所のケア方針や考え方、利用料金や医療的対応、またサービス可能な範囲、契約解除等についても説明をしている。出来る事、出来ない事についても明確に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情については、すぐ管理者に連絡し、全従業員にも周知出来るように職員会議、連絡ノートなどで話し合いの場を設け、改善に取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設間もない為、職員会議や毎日の引き継ぎでの意見、連絡ノート利用等、その都度提案事項を聞く機会を設け、討議している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設に伴い、新スタッフも多い為、利用者様との信頼関係を築く為にも、働きやすい環境作りに留意し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。又事業者内、外の研修参加により、個々のレベルアップ向上に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所に講師を招いてのホーム内研修には出来る限り参加出来るように促している。外部研修には、ニーズに合った研修や興味のある講義にも参加出来る用に調整していきたい。又センター方式の書式を利用し記録の記入の仕方、視点等も仕事を通じ先輩が後輩に教える関係作りが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	小規模多機能連絡協議会主催の研修、スタッフ交換研修等、管理者会議等で交流の場を持ちサービスの質の向上の為の勉強会、情報交換等を行っていききたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時には必ず本人に面談、見学をして頂き、本人の生活状況を把握し、本人の困っていること、要望等に耳を傾け、本人が安心して利用出来るよう関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時には必ず家族に面談、見学をして頂き、家族の困っていること、要望等を傾聴し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時には必ず本人家族に面談し、思いや状況の把握をし、可能な限り意向をくみ取り柔軟な対応に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所は元気な方が多い為、掃除、洗濯、食事の用意、片付け等、出来る事はして頂き、利用者様自身が自分の役割として、自主的に参加されるかたもいて、お互いが共に協働し和やかに過ごしていけるようご本人の意向を尊重し関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、本人の思いや状況を見極めながら、行事に参加を促したり、共に本人を支えて行く為に連携を蜜に図り、より良い関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らないように馴染みの方との外出や訪問、電話等でのコミュニケーションの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が好きな利用者様には個別対応で関わりながら、他利用者様とも自然な形で過ごせるように話題作り、又レクリエーション、家事参加等の声掛け等を行い孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所等で、当事業所のサービス終了後も必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向、希望を主張される方が多い為、出来るだけ、本人の要望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメントシート(24H)の把握の他、日常の中の個々の生活環境や、暮らし方等を本人からも伝え聞き、実情の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用や、日常生活の中での個々の心身状態や、出来る事、有する力等の、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式、カンファレンス会議等の中で、ご本人、家族より得た情報や意向を反映し、モニタリングや意見、アイデア等を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等、個々の生活記録に記入し、職員間での申し送り、連絡ノートでの伝達等で情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に出来る限り柔軟に対応するよう心掛けている。又新たなニーズには、家族とも連携を取り、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、又町内会との付き合い等で町内会主催のカラオケ会、湖水祭り、新年会等に参加させて頂く等、地域資源を活用させて楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関がかかりつけになっているケースもあり、本人の状況に応じ訪問診療の協力も行ってくれている。また、協力医療機関がかかりつけでない場合でも、連絡体制を築き適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での異変や不調等は、職場看護師に伝え、相談、確認作業の中で、個々の利用者が適切な受診や介護、看護を受けられる支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要に応じ本人の情報提供を医療機関にし、職員が時々訪院して状況把握に努めている。また家族との情報交換もしながら退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、週末期の関わり方については、本人、家族を交え話し合いを行っている。急変した場合にもすぐ対応して頂けるよう医療機関とも連携を図り、対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤等、一人勤務体制時の緊急マニュアルを作成し、対応方法を全職員に周知徹底を図っている。今後は応急手当、初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけられるように努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を地域の方々、消防署の協力も得て実施している。また地域の緊急連絡網も作成し、協力を得ている。実際に連絡網を回し日中夜間の想定で訓練を実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保、支援に努めているが、利用者の中には、聞き耳を立てて聞こうとする方もいるので、利用者の話をする時には、十分注意するように話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望を言える利用者様が多い為、出来る事は希望に添うよう支援している。又一人ひとりが自分で決める場面を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にし、利用者様優先を第一に考え、その日、その時の本人の思いを尊重し、個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ(髭剃り、爪切り、服装等)は、本人の意思を尊重し支援が必要な場合は必要に応じ支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎日、利用者、職員と一緒に食器洗い、食器片付け、お盆ふき等を分担しながら片付けをしている。又嫌いなもの、食べられないものは、個別対応で別なものを用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事習慣、個々の状態や、力により、食事の形状や量の調整を行い、個別に摂取量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で歯磨きが出来る利用者様ばかりなので、毎食後、必ず口腔ケアをして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車いす利用の方でも、トイレでの排泄、衣類の上げ下げを行われているので、一部本人の手の届かない部分の介助支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手足の運動の声掛け、繊維質の多い食材や乳製品の摂取、水分量の把握も含め、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	男女別々の曜日を決め、出来る限り本人の意向に沿った入浴順番、入浴方法で支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、離床を促し生活リズムを整えていくよう努め、場合によっては本人、家族、医師と相談し、安眠を促せるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チエック表で処方された薬を把握し、服薬時には、確実に服用したか確認し、薬の変更、副作用等にも個々の体調変化の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付け、手すりの拭き掃除等、本人が張り合いを持ってして頂ける、役割分担の支援をしている。又手足の運動、ゲーム(オセロ、百人一首、カルタ)等で気分転換をはかれるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課としている方には、スタッフが見守り支援。買い物希望者には、付き添い支援。町内会主催のカラオケ会には、地域の方がボランティアで送迎、等協力して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際に、個人で好みの物を買われたり、本人は外出出来ないが、職員に買い物を頼む等、利用者の半数以上が個々に金銭管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の方は個人で携帯を所持されているので、家族、友人との連絡は自由にされている。又、はがき等の代筆を頼まれ、支援する事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス会、お正月、お誕生会等、の飾り付けや、配置など利用者の意見を取り入れたたりし、居心地の良い空間づくりを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開設当初、食卓席の位置は個々に選んでもらい、今に至っている。共有空間のソファの場所も自由に使えるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、ご本人が家族と相談され、今まで使用していたなじみのものを持参されたり、好みのものを用意され、居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	数名の方は入浴後、自分で洗濯機をセットされ、小さい洗濯物は自室に干され自立した生活を過ごされている。また状態が変化した場合には都度従業員間で話し合い不安材料を取り除き混乱などないように努めている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴ヶ岱 2階

作成日: 平成29年 3月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	34	開設当初は少人数でのスタッフで対応、1階からの応援スタッフに助けられ、何とかスタートしたが、毎日のレクリエーションが定着していない為、利用者様が1階のレクに参加させて頂いているのが現状。	グループホーム鶴ヶ岱2階の、一日の生活の流れの中に、利用者様が楽しんで参加出来る、レクリエーションを定着させ、利用者様とのコミュニケーションを深める。	嚙下体操等を、昼食前にⅡ(日勤)が行う。午後おやつ前(14時～15時の間)にⅠ(早出)が中心になり行う。定着するまでは、シフトに組み入れて実施。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。